

【資料1】

平成25年度武雄市立御船が丘小学校 学校評価計画

1 学校教育目標
一人一人の個性を尊重しながら、自ら学び、考え、判断していく創造的な知性と豊かな人間性を持つ心身共に健康な子どもを育てる。
2 学校経営ビジョン
○めざす学校像ー児童が明日もきたいと思う学校、明るく活気のある楽しい学校、安全と環境が整備された美しい学校 ○めざす教師像ー児童一人一人を生かし伸ばす教師、「人間力」「教師力」を磨く教師、保護者との信頼を築く教師 ○めざす児童像ー心をみがく みふねっ子、知恵をはぐくむ みふねっ子、体をきたえる みふねっ子

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①心をみがく みふねっ子の育成 ②知恵をはぐくむ みふねっ子の育成 ③体をきたえる みふねっ子の育成	前年度、ほとんどの項目で組織的に取り組むことができた。特に九小国研の会場校となったおかげで、国語や読書の力がついたように思える。ただ、項目が多すぎるために手が回らない項目があり、職員の頑張りやA評価に直結しないもどかしさがあった。また、評価をしようとしてもその活動が具体的に見えにくいものもあり、重点的に何かをおこなって保護者や地域の方に成果を問うためには、「御船の合言葉」とそれに関わる教育活動を体系化し、教育活動の様子をこまめに情報発信することで、家庭や地域の方々に認識していただく必要がある。そこで、今年度は大幅に項目を絞ることで職員の目標意識を高め、「みふねの合言葉」を意識した組織づくりをすることで、職員が学校教育目標を常に意識しながら教育活動をおこない、それを保護者・地域に伝えていくようにする。また、学校での学習に、家庭や地域での過ごし方が大きく影響するため、「家庭や地域での好ましい生活習慣の定着」に関する項目を、学校と家庭・地域が連携を図りながら定着させていきたい。

5 総括表				
①心をみがく みふねっ子の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●心の教育 (前田・松村・大島)	道徳教育の計画的実践と児童会活動の連携	・児童会活動を通して心を育てる場を年〇回設定する。 ・振り返りを……〇%掲載する。 ・学校が楽しいと言える子が〇%以上	代表委員会で人権についての話し合いの場や、集会活動で振り返りの場を設定し人権意識や役割意識を育てる。
	●いじめの問題への対応 (大石・石丸)	いじめ0(ゼロ)運動の推進	・いじめアンケートにおいて……〇%を目指す。	・心なま本部と連携し、いじめ0"キャンペーンを行う。 ・定期的な心のアンケートを実施し児童理解と問題解決の手がかりとする。 ・毎週の職員連絡会で、気になる子の情報交換を行う。 ・主幹教諭と生徒指導主任を中心とした指導体制を確立し、担任をサポートする。

②知恵をはぐくむ みふねっ子の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●学力の向上 (松尾・古川)	基礎学力と学習習慣の定着	CRTテストで～	漢字・計算テストを実施し90点以上の合格をめざす。家庭学習のすすめを配布し、学習時間と内容を把握し、提案する。
	●ICT活用教育の推進 (大石・吉田)	ICT機器の有効活用	・週1回以上のパソコン室・スマートボード・タブレット端末を活用した授業を行う。 ・パソコン室・スマートボード・タブレット端末及び活用ソフトの研修会を年〇回実施する。	・校内研修のICT部と連携しての「おもいやい研」の定期的な開催。 ・スマートボード、パソコン室、電子教科書の利用状況を月ごとに集計する。 ・これまで作成されたICT資料を整理し、ライブラリー化する。
	○特別支援教育の充実 (橋口・片山)	要支援児童の支援体制の確立	・年〇回の特別支援の研修をおこなう。 ・特別支援ミーティングを年間〇回おこなう。	・各学級の児童の実態を把握し、特別支援ミーティングを通して、支援のあり方を探る。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。
	○家庭読書(家読)の推進 (中島・田澤)	「家読の日」の推進と定着 「リレーうちどく」の奨励	・家読の日の実施率を80%以上とする。 ・リレーうちどくの実施冊数を一人あたり年間12冊以上とする。	・リレー家読の感想を月1回～2回、おたよりに載せる。 ・放送、掲示、おたよりで、月2回の家読の日を呼び掛ける。 ・全校統一したカードを作成し、家読の日に読んだ本の書名を記録させる。
	○家庭学習習慣の定着 (石丸・大島)	家庭学習の習慣化	・各学年の家庭学習目標時間達成を〇%を毎日させる。 ・自主学習の取組を〇冊の児童を〇人とする。	・「家庭学習のススメ」を配布し、家庭学習の必要性を伝える。 ・家庭学習の定期的な調査を行い、家庭への啓発と定着を図る。 ・宿題以外の自主学習に取り組む課題の出し方を検討する。

③体をきたえる みふねっ子の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●健康・体づくり (千綿・大嶋・桑原)	運動習慣の改善と体力の向上	・スポーツテストにおいて4月と11月に記録を測り、記録向上の児童を80%以上にする。	・御船リンピックを開催し、記録上位者を校内掲示する。 ・かけっこ月間、縄跳び月間、持久走月間を設ける。 ・学習カードを活用した体育授業を推進する。
	○食育推進 (橋村・浦郷・山口直)	望ましい食習慣の形成	・5校時給食を推進し、残量を一人1日1g未満とする。 ・お弁当の日を年間5回設定する。 ・年間計画をもとに各学年で栄養職員を使った授業を年1回行う。	・放送による食育指導と児童によるポスター作成の実施。 ・お弁当の日を設定し、児童が準備や片づけに関わるよう啓発を行う。 ・各学年に応じた栄養職員の活用を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●小学校低学年の学習環境の改善充実 (古川・黒木・前田い)	低学年における学習習慣・生活習慣の定着	・幼保小の連携、家庭との連携を図り、学習習慣、生活習慣の目標達成率を90%以上定着させる。	・幼保小連絡協議会(6月実施)・幼保との情報交換会の連携(2月実施)を図り児童一人一人の実態をつぶさに把握し指導に生かす。 ・ひかいちカード(生活週間・学習習慣チェックカード)を通して家庭との連携を図り、学習・生活週間の達成率90%を図る。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

